“数学は目の科学である”—オイラー（補）

小　嶋　　稔（地球物理）

理学部広報一月号で、「数学は目の科学である—オイラー」という駄文を寄稿いたしました。その後これをお読みになった天文学教室の本木たい子さんが、オイラーの話に興味をそそられ、高木先生の「近世数学史談」をお読みになったということです。ところが小生の引用(?)した上述の逸話は見当らなかった、という御話を人伝てに伺いました。全く私の思い違いらしく冷汗三斗の思いです。

私が高木先生の御本を読んだのは今から三十五六年程も前、つまり終戦直後、まだ中学３～４年の頃のことでした。たしかあの「近世数学

史談」は、戦前に共立出版から発行されたもので、闇市の古本屋で見つけわくわくして読んだのをおぼえております。その印象があまりに強烈だったため、何か別の本 ― あるいは小堀先生のこれも往年の名著 “大数学者” (また間違ったらお許し下さい) ― で読んだ話と混乱してしまったのかも知れません。どちらの本も転々と居を変えるうちにどこかに無くなってしまいました。今となっては、例のオイラーの逸話の出典をしらべるすべもありません。理化学辞典でしらべてみると、オイラーはたしかに盲目でした。この盲目の大数学者オイラーの箴言としての “数学は目の科学である” ― は私の勝手な “創造” にしては、あまりにもよく出来すぎの様に見えますので、やはりオイラー自身の言葉でしょうか!

どなたか出典につき御教示下されば幸甚です。冷汗頓首。